

松田弘和

毎年、この時期がやってくると、学校では「今年は何を披露しようか。」いろいろ検討します。学習発表会で子どもたちが行った劇をもとに職員がアレンジして、学校の中の様子を面白おかしく紹介する、そういった創作劇をこれまで披露してきました。しかし、今年は、やっぱり学校の主役は子どもたち。子どもたちが活躍している様子を保護者以外の一般会員の方に直接聞いてもらおう。そう考え、今回はいつも取り組んでいる合唱曲を、児童生徒職員で披露することにしました。

「少年時代(井上陽水)」「翼をください(赤い鳥)」はいかがだったでしょうか。2曲とも誰もが知っている名曲であり、いつの時代でも心に響く歌です。当日、ピアノの音が聞こえにくかったですが、我が合唱隊は無事歌い切り、みなさんから大きな拍手をいただくことができました。

ブエノスアイレス日本人学校では、昨年度より歌声の響く学校づくりを進めています。特に今年度は音楽担当の先生の熱意もあって、朝活動で合唱を、下校集会でマイソングの発表活動を行うなど、毎日の学校生活の中で歌声が自然に響くようになってきています。9月の学習発表会で子どもたちの歌声を聞いたある永住日本人の方が目を潤ませながら、日本の学校教育の心の豊かさを高く評価してくださいました。また、1月下旬は日亜学院の児童生徒が5日間体験入学をして過ごし、彼らも「夏だ」「世界中の子どもたちが」を日本語で覚え、最終日には保護者の前で堂々と歌っていました。



このように日本人学校では、歌を通して日本人の心を育み、人に伝え、人とつながる教育を大事にしています。今回、商工会忘年会で参加者の皆さんにぜひ、子どもたちの澄んだ歌声を、各社駐在員の方にお子さんがいるいないにかかわらず、聞いていただきたい。そう考え、児童生徒・教職員が舞台に立ちました。

日本から 18,000km、遠く離れたブエノスアイレスの地でも、日本の子どもたちが頑張っている。現地日本人社会の財産でもあり、未来を担う日本の人材でもある日本人学校の子どもたちを、今後とも温かく見守り、応援してください。

私たち教職員もがんばっています。私的にも、それぞれの特技を生かし、フットサルチームで多国間親善を行ったり、歌のグループに入って現地に貢献したり、日系人グループでエイサーを習ったり、南米自然研究で地元の人と親しくなったり、各地の日系日本人会との交流を深めたりしています。忘年会では、TOYOTA の方からの誘いもあり、本校鈴木先生がブレイクダンスで頑張ってくれました。

鈴木先生から一言：

『今回、このような機会をいただいて関係者の方には感謝しております。私は大学からダンスを始め、社会人になってからも頻度は少ないですが、続けています。皆様に少しでもブレイクダンスを知っていただけたなら幸いです。』

今後ともブエノスアイレス日本人学校をよろしく申し上げます。

(まつだひろかず：前ブエノスアイレス日本人学校校長<2018.4~2021.3>)

2019年3月在亜日本商工会議所会報より転載

少年時代 (井上陽水)	翼をください (赤い鳥)
夏が過ぎ 風あざみ だれの憧れにさまよう 青空に残された 私の心は夏もよう 夢が覚め 夜の中 長い冬が 窓を閉じて 呼びかけたままで 夢はつまり 思い出の後先	いま私の願いごとが かなうならば翼がほしい この背中に鳥のように 白い翼つけてください この大空に翼をひろげ 飛んで行きたいよ 悲しみのない自由な空へ 翼はためかせ 行きたい
夏祭り 宵かがり 胸の高鳴りに合わせて 八月は 夢花火 私の心は夏もよう 目が覚めて 夢のあと 長い影が 夜に伸びて 星屑の空へ 夢はつまり 思い出の後先	いま富とか名誉ならば いらないけど翼がほしい 子どものとき夢みたこと 今も同じ夢に見ている この大空に翼をひろげ 飛んで行きたいよ 悲しみのない自由な空へ 翼はためかせ
夏が過ぎ風あざみ だれの憧れにさまよう 八月は 夢花火 私の心は夏もよう	この大空に翼をひろげ 飛んで行きたいよ 悲しみのない自由な空へ

<会報電子版編集より>

ブエノスアイレス日本人学校 前校長松田弘和氏、現校長菅原善之氏、在亜日本商工会議所 事務局長上野至氏並びに同会議所のご賛同、ご協力を得てこの転載となりました。

今後とも多方面のご協力のもと、充実に努めて参ります。